

よりよい生き方を学び続ける道徳授業の創造



I	研究の目的	129
1	研究の背景	129
2	研究の方向	130
II	研究の内容	131
1	よりよい生き方を学び続ける授業とは	131
(1)	よりよい生き方とは	131
(2)	よりよい生き方を学び続けるとは	131
(3)	よりよい生き方を学び続ける授業とは	132
2	よりよい生き方を学び続ける道徳授業創造の基本的な考え方	132
(1)	よりよい生き方を学び続ける子どもの姿の設定	132
(2)	よりよい生き方を学び続けるための学習内容の設定	134
(3)	よりよい生き方を学び続けるための指導方法の充実	134
III	研究の方法	135
1	研究の手順と方法	135
2	研究計画	136
IV	研究の実際【第3学年主題名「ささえられているわたし」(尊敬・感謝)の実践】	137
1	実践の基本的な立場	137
2	実践の構想と実際	137
(1)	本主題の授業の具体化	137
(2)	授業の実際と考察	140
V	研究の成果と課題	142
1	研究の成果	142
2	研究の課題	142

本研究では、子どもたちが自分のこれからの生き方に自信と夢や希望をもてるような、楽しく学びがいのある授業を目指している。そのために、子ども一人一人が自らの道徳的問題を大切にしながら、心の葛藤を自分の心の揺れとして共感し、よりよく生きることのよさを実感することができるようにしていく。

I 研究の目的

1 研究の背景

子どもたちにとって最近の学校教育の課題として学力向上が重要視される中、一方では生きる意欲に欠けた子どもたちの心の問題が話題となっている。その背景として、学ぶことに対する意義、生きることに対する意義を自分なりに見付けられない子どもが増えているということが挙げられる。

学ぶことでよりよい自分を目指し、よりよく生きようとする意欲の欠如は、自己肯定感を失わせたり人間関係能力を低下させたりすることにつながっていると考えられる。そのような現状の中であるからこそ、学校における心の教育の充実が重要な課題となり、道徳教育はその中核をなすものでなければならぬと言える。さらに道徳教育のかなめとなる道徳の時間の重要度はより一層増していかなければならないと考える。

しかし、一方では、道徳の時間がなかなか充実していないという現状も見られる。その背景として、次のような一般的な課題があるからではないだろうか。

① 道徳の時間の有用感を感じられない。

(学んだこと・感じたことが、自分と社会にどのように働くのかを一人一人が実感できる授業であるはずなのに・・・)

② 教え込みになり、子どもたちが気付いていくような授業になっていない。

(道徳性は、人それぞれのこれまでの生活経験や生活環境の中で培われるものであるから、同じであることはないはずなのに・・・)

③ 子どもたちの意識の流れと合わない内容を取り扱ってしまう。

(指導要領解説にある内容項目は窓口であり、そこから何を学習内容とするかは、子どもたちの生活場面にあるはずなのに・・・)

④ 授業展開に多様性がない。

(週1時間が6年間行われる。同じような展開では子どもたちにとって魅力ある時間とは言えない。それが6年間も続くとなると・・・)

これらが要因となり、子どもたちの道徳の時間における学ぶ意欲を減退させているとも言える。これらの現状を改善していくためには、道徳の時間を子どもたちにとって、これからの生き方に自信と夢や希望をもてるような楽しく学びがいのあるものにしていかなければならないと考える。

学習指導要領には、道徳の時間の目標は、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力の育成にあると記されてある。道徳的価値の内面的な自覚は、子どもが自ら学ぶことで実感として深まり、道徳的実践力は、学んだことに意義を感じて高まるものである。このようなことから道徳の時間の目標を達成するためにも、子どもたちが、これからの生き方に自信と夢や希望をもてるような楽しく学びがいのある授業を実践していかなければならないということが言える。

以上のことから、道徳の時間を子ども一人一人が自分を見つめ、自分に問いかけながら学び合いの中でよりよく生きることのよさを学び続けることができる授業にしていく必要があると考える。

2 研究の方向

これからの生き方に自信と夢や希望がもてるような授業づくりを目指して。

これまでの研究では、心の葛藤を乗り越える喜びや楽しさを味わう道徳授業づくりを進めてきた。そして、学習内容については、自己をより深く見つめたり自分自身に繰り返し問いかけたりする学び方として、「自己の見つめ方、自己への問いかけ方」（以下、「見つめ方、問いかけ方」）の発達特性や子どもの意識・実態から構造化し設定した。また、指導方法については、学習内容に応じて資料の選定・開発、教材化や心の葛藤を追体験させるための手立てなどを実践してきた。その中で、子どもたちは「見つめ方、問いかけ方」を発揮しながら、心の葛藤への共感を高め、心の葛藤を乗り越える喜びや楽しさを味わうことができるようになってきた。

本研究では、これまで研究してきた学習内容や指導方法をさらに充実させ、子ども一人一人がこれからの生き方に自信と夢や希望がもてるような楽しく学びがいのある授業にしていきたいと考えた。そして、そんな授業にしていくために、次のような観点から授業づくりを進めていくこととした。

① 道徳的問題を明確にもたせる～よりよい生き方を学ぼうとする姿～

- 共通問題へと発展させるが、問題の個別性も重視し、その問題を解決することが自分の生き方をよりよいものにするという意識をもつ。

② 心の葛藤への共感を高めさせ、自分なりの見方・考え方・感じ方を確かにもたせる～よりよい生き方を考えようとする姿～

- 解決・納得のために「見つめ方、問いかけ方」を駆使しながら、学び合いを通して、見方・考え方・感じ方を再構成していくことへの楽しさを感じる。

③ 達成感・満足感から実践への意欲をもたせる～よりよい生き方を理解し、実践しようとする姿～

- 問題がどのように解決され、何を得たかまたは何を感じたかをはっきりさせ、それを大切にすることで自分のこれからの生き方に自信と夢や希望をもつ。

上に挙げた観点の基に授業を具現化するために、まずは目指す子どもの姿を想定していく。そのために、道徳の授業において子どもたちのどんな姿が見られたときに、心の葛藤を自分の心の揺れとして共感し、よりよく生きることのよさの実感を深め、よりよい生き方を追究しようしていると言えるのかを明らかにしていく。

次に、目指す子どもの姿が見られるような学習内容の設定を行う。その際、これまでの研究を基に、よりよい生き方の実践を支える見方・考え方・感じ方とよりよい生き方の実践を阻む心の弱さといった心の葛藤の発達の傾向について分析し、精選・構造化していく。

さらに、目指す子どもの姿が見られるためには、指導方法の充実も大切になる。子どもの意識の流れに沿った資料の選定・開発、教材化、子どもがじっくりたっぷり学び合える学習活動の工夫など、多様に行っていく必要があると考えている。

このようなことから、本研究のテーマを次のように設定した。

よりよい生き方を学び続ける道徳授業の創造

II 研究の内容

1 よりよい生き方を学び続ける道徳授業とは

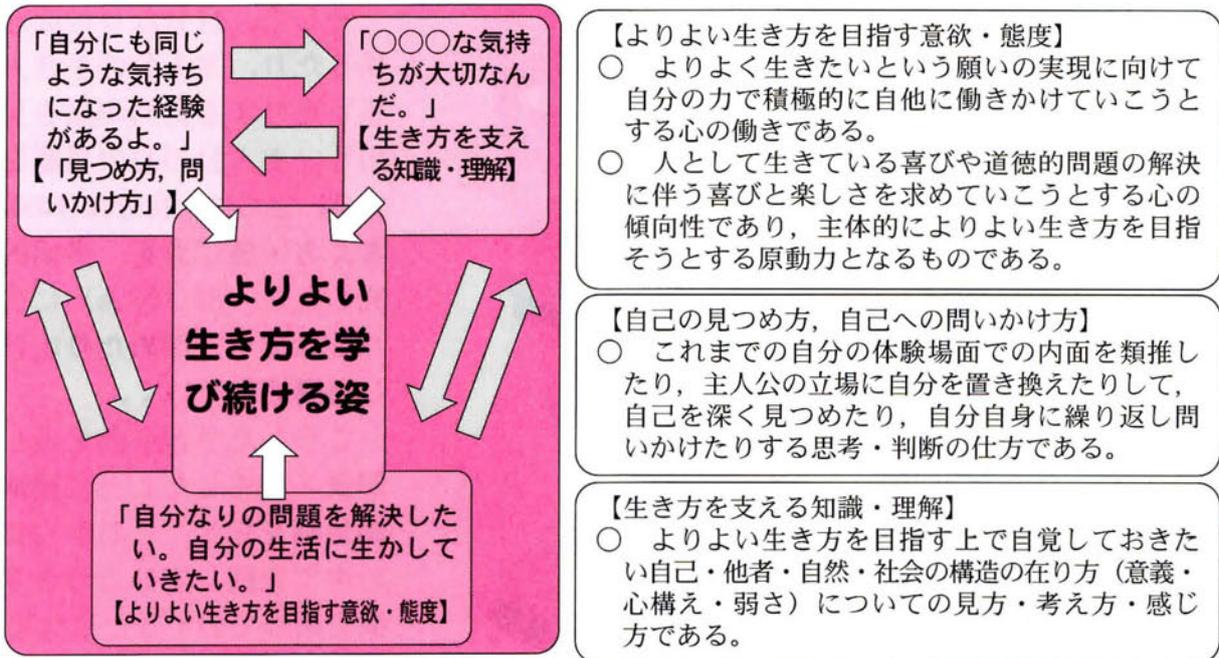
よりよい生き方は普遍的・善美的・調和的。

(1) よりよい生き方とは

「よりよい生き方」とは、ただ生きるのではなく、自分らしく生きること、さらには心の葛藤へ共感しながら、普遍的であり、真・善・美に迫る「我也よし、人もよし」とする調和的な生き方を目指して生きていくことである。

そして、授業で子どもたちが学び取るよりよい生き方とは、上記内容を踏まえて具現化した道徳的価値のもつよさそのものであり、それを意欲的に追究しようとする学びの姿でもある。

(2) よりよい生き方を学び続けるとは



【図1 よりよい生き方を学び続ける姿】

よりよい生き方を学び続けるとは、「よりよい生き方を指す意欲・態度」、「生き方を支える知識・理解」、「見つめ方、問いかけ方」の三つの資質・能力が発揮される中で、調和的に生きることを実現に向けて、学び続ける状態であり、授業の中では、次のような子どもの姿となる。

その姿は、子ども自身が、心の葛藤の構造や道徳的価値のよさに対する見方・考え方・感じ方を、これまでの自分の体験と重ね合わせたり関係付けたりすることにより、よりよいものに高めていきたいと願う姿である。そして、高まった見方・考え方・感じ方を基に、自分のこれからの生き方をよりよくしていこうとする意欲を高めていく姿である。

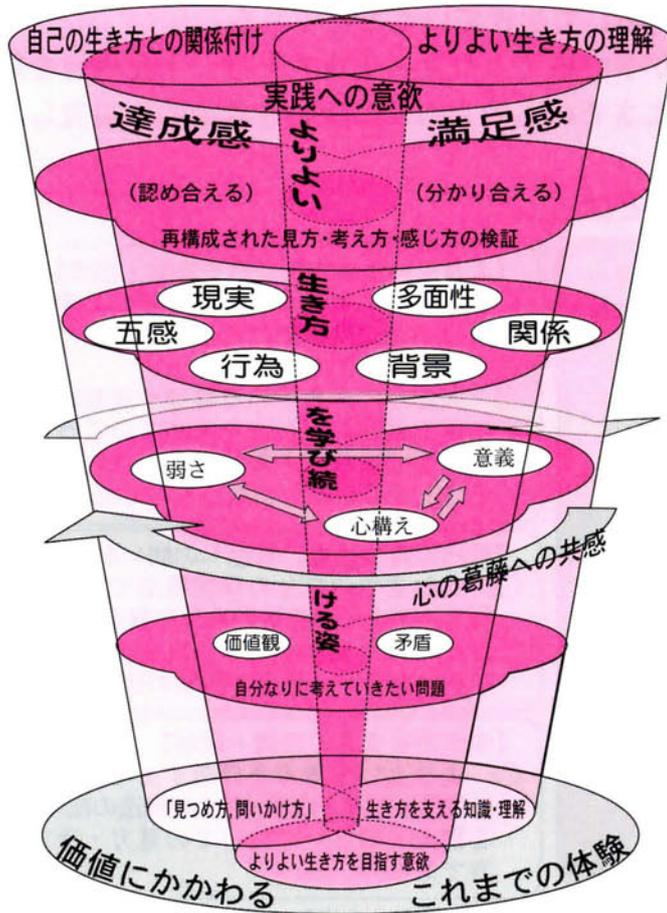
また、その姿は常に三つの資質・能力がバランスよく発揮されている状態だけではない。子どもの価値にかかわる体験の違い、どんな学習内容を設定するか、どんな指導方法を行うかにより、ある資質・能力に偏って発揮されることもあると考える。授業においては、どの資質・能力をよりよく発揮させることが、よりよい生き方を学び続ける子どもの姿の表出につながるかを、子どもの実態から探ることが大切である。

三つの資質・能力と目指す子どもの姿との関係。

よりよい生き方を学び続ける道徳授業の構造。

(3) よりよい生き方を学び続ける道徳授業とは

よりよい生き方を学び続ける道徳授業とは、子どもたちが「見つめ方、問いかけ方」を駆使しながら、心の葛藤を自分の心の揺れとして共感し、よりよく生きることのよさへの実感を深め、よりよく生きようとする意欲を高めていく授業である。



【図2 よりよい生き方を学び続ける道徳授業の構造】

まず、子どもたちは、これまでの道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を基にしたり、感情の矛盾から問題点に気付いたりし、自分なりに考えていきたい問題をつくる。

そして、自分なりの問題と関係したり、主人公の生き方に共感したりする資料場面を見つけ出し、主人公の心の葛藤を追究する。さらに、自分なりの見方・考え方・感じ方を、多面的に追究したり、形（行為）に表したりしながら、深めたり広げたりし再構成していく。

こうした学習活動を通して、解決・納得したことに達成感や満足感を抱き、これからの生活の中で実践していこうとする意欲を高めていくことになる。

このような授業の中で、よりよい生き方を学び続ける姿は、3つの資質・能力全体に支えら

れたり、それぞれの資質・能力の必要十分な部分に焦点化されたりする中で見られるものであるととらえる。

そして、学習内容にかかわる子どもの経験を踏まえ、どのように授業を展開することが、よりよい生き方を学び続ける姿の具現化につながるかを、日々の授業で見られる子どもの姿から探ることが大切であると考えます。

2 よりよい生き方を学び続ける道徳授業創造の基本的な考え方

姿を想定し設定するために。

(1) よりよい生き方を学び続ける子どもの姿の設定

まずは、よりよい生き方を学び続ける子どもの姿を、昨年度までの研究した「見つめ方、問いかけ方」の発達特性や意識調査等から設定される学習内容を基に想定していく。そして、授業実践の中で、よりよい生き方を学び続ける姿を、「よりよい生き方を指す意欲・態度」が発揮される様子から、「見つめ方・問いかけ方」、「生き方を支える知識・理解」の発揮される様子を探り、その妥当性を検証していく。

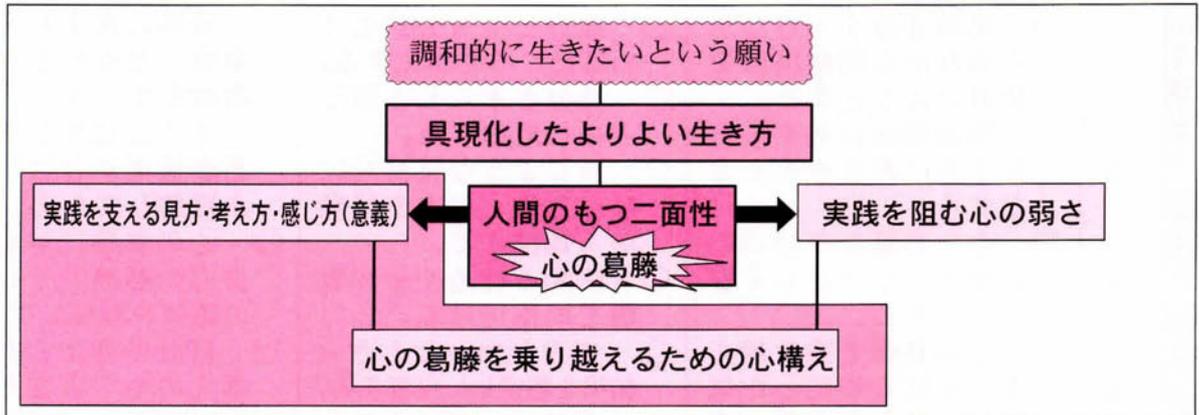
授業の中で、よりよい生き方を学び続ける姿は、基本的に以下のような姿として現れると想定し、授業実践を通して具体的に設定する。

【表1 よりよい生き方を学び続ける子どもの姿】

	よりよい生き方を目指す意欲・態度	「見つめ方、問いかけ方」	生き方を支える知識・理解
「よりよい生き方を 目指す意欲・態度」 からよりよい生き方を 学び続ける姿を想定。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発問や提示資料から問題点や矛盾点を見付けようとする。 ○ 自分のこととしてとらえ自分なりの問題をつくろうとする。 	された経験と感情⇔できなかった経験と感情 できた経験と感情⇔できなかった経験と感情 できなかった経験⇔その後の感情 知っていること⇔できなかった経験と感情 理想の生き方⇔現実の生き方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分もつ価値に対する見方・考え方・感じ方を理解している。 ○ 価値にかかわる経験とそのときの感情を理解している。
	自己の体験場面に伴う感情となりたい自分を対比させ、矛盾があることに気づき、具体的な背景をもって自分なりに考えていきたい問題をつくる。 【発表・つぶやき・書き込みなど】		
さ ぐ る ↓ 見 つ け る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題意識をもちながら資料から問題場面を見付けようとする。 ○ 問題場面に対する自分なりの考えをもとうとする。 ○ 心の葛藤を自分の心の揺れとしてとらえ探ろうとする。 ○ 心の葛藤を乗り越えるために大切にしたい気持ちや考えを表現しようとする。 ○ 価値にかかわる自分の経験を想起しようとする。 ○ 他の見方・考え方・感じ方を探ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と主人公が似ているところを類比する。 ○ 自分を主人公と同じ立場に置換する。 ○ 同じような気持ちになったことがある経験から類推する。 ○ 感動と行為やその動機を関係付ける。 ○ できなかったときの結果を想定し、反証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に含まれる心の葛藤にかかわる内容を理解している。 ○ 主人公に生じる心の葛藤場面がどこであるか理解している。 ○ 心の葛藤にかかわる自己の経験とそのときの感情を理解している。 ○ 自分の考えと友達の考えのもつよさを理解している。 ○ 自分が追究したい内容と活動の目的の関係を理解している。
資料中の主人公の心情や心情の変化について「自分には、〜〜な経験があって、そのとき自分は・・・と思ったから」など具体的な根拠を基に考える。 【発表・つぶやき・書き込み・対話活動・動作化・役割演技など】			
深 め る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大切にしたい気持ちや気付いた考えを表そうとする。 ○ 自分のこれまでの生活を振り返ろうとする。 ○ 自分が立てた問題を振り返り、自分なりの考えをまとめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 追究した気持ちや考えと自分の生活と関係付ける。 ○ 友達の考えと自分の考えを比較する。 ○ 自分のこれまでの見方・考え方・感じ方と学習してきた内容を関係付けながら再構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えと友達の考えのもつよさを理解している。 ○ 再構成された見方・考え方・感じ方の内容を理解している。
大切にしたい気持ちや気付いた考えを基に、友達の考えや話し合ってきた考えと関係付けながら価値観の再構成を行う。 【発表・つぶやき・実際の形（行為）など】			
見 通 す	<ul style="list-style-type: none"> ○ なりたい姿を具体的に考ようとする。 ○ 価値にかかわる新たな問題を見つけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 解決された問題と自己のこれからの生き方と関係付ける。 ○ 解決された内容から新たな問題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 解決された内容を理解し、納得している。 ○ これからの自分の生活に何を生かすことができるかを理解している。
再構成された見方・考え方・感じ方を通して自己の生き方を具体的に表現したり、新たな問題を設定したりし、これからの生活で実践していこうとする。 【発表・つぶやき・書き込みなど】			

(2) よりよい生き方を学び続けるための学習内容の設定

本校では、道徳における学習内容については次のような基本的な考えを基にして設定している。学習内容とは、学習指導要領に示されている内容項目を基に、よりよい生き方の実践を支える意義や心構えと、よりよい生き方の実践を阻む心の弱さといった人間のもつ心の二面性について分析し、精選・構造化したものである。この考え方を基に、本年度は、学び合いの中でよりよい生き方のよさを実感できるように、学んだことを具体的な形（行為）に表す内容を新たに設定していく。そして、その妥当性を検証し、よりよい生き方を学び続けるための学習内容を設定する要件を探っていく。



【図3 基本的な学習内容の構造】

(3) よりよい生き方を学び続けるための指導方法の充実

よりよい生き方を学び続ける授業をつくるために、次のような点から指導方法の充実を図っていきたいと考えた。

① 考えていきたい問題の個別化，共通化

道徳的価値の対する見方・考え方・感じ方は個別的・主体的であるため、道徳授業で考えていきたい問題もまずは個別性を大切にする。さらに共通化した問題を設定することで、個人の問題の補充・発展を図る。

【導入における問題意識を高めるための提示資料，板書，発問などの工夫】

② 資料の選定・開発，教材化

子どもたちが自分なりの問題や共通の問題を解決するための内容が盛り込まれ、よりよい生き方を学び続けることのよさを感じられる資料を選定・開発し、教材化する。

資料の具備すべき要件

◎ 鏡としての働きをもつ資料

子どもたちのありのままの心をそのままとらえる。よりよい生き方の実践を阻む心の弱さに共感できる内容

◎ 砥石としての働きをもつ資料

子どもたちの見方・考え方・感じ方を磨く。多面的な見方・考え方・感じ方ができる内容

◎ 道標としての働きをもつ資料

子どもたちの現在及び将来の生き方に展望を与える。感動を通してよりよい生き方を明確にできる内容

よりよい生き方を追究しやすくなるように学習内容を精選・構造化。

考えていきたい問題の個別性を重視しながら、解決に向けて多様な学習活動を設定。

考えていきたい問題の個別性を重視しながら、解決に向けて多様な学習活動を設定。

③ 学習活動の精選と多様化

ア 子どもがよりよい生き方を追究していく際に、必要かつ十分な学習活動を設定していく。学習活動を精選することで、子どもたちがじっくりたっぷり生き方を追究するための時間が確保できる。

【実態調査結果を生かし、子どもの意識の流れの想定から活動内容を吟味】

イ 基本的な授業の流れを大切にしながら、よりよい生き方を学び続けるために多様な展開を進める。

【見方・考え方・感じ方を形（行為）に表す活動を通して再構成】

ウ 学習の振り返りの場を充実させることで、自分の成長を実感させたり、新たな課題をもたせたりし、実践への意欲を高める。

【まとめる活動の際、観点の基にした振り返り活動の設定】

「何がためになったか、自分にとってどんな価値があったか、今までの自分には何が足りなかったか、これからどうしたいと思ったか」

学習内容の振り返り

「どのような考え方を基に、どのように学習を進めてきたら、どのような考えに気付いたか」

学びの過程の振り返り

④ 発問、板書、ワークシートの工夫

ア 発達特性、学習内容に照らし合わせて、「見つめ方、問いかけ方」ができるような発問を効果的に行い、資料中の主人公の心情への共感やよりよい生き方のよさの実感を高めさせる。

【「見つめ方、問いかけ方」として反証をうながす発問。「もし、・・・したら、しなかったらどうなるだろう。」】

イ 問題解決の道筋を大切にしながら子どもとともに板書を構造化していく。その際、個々の問題との関係性や実態調査結果を生かして意図的指名を構想し、考えと考えの順序や関係性が明確になるようにする。

【板書の構造化、実態調査を生かした意図的指名、問題解決過程を意識できるワークシートの形式の工夫】

Ⅲ 研究の方法

1 研究の手順と方法

「尊敬・感謝」に研究領域を焦点化。

右の表のように、前研究において設定した研究領域の種類の表を基にして本研究の領域を焦点化していく。

前研究を踏襲することで、すべての領域において、発達に応じた学習内容の系統や指導方法について明らかになるからである。

本年度は、「主に価値の自覚を図る項目」の中から内容項目「尊敬・感謝」に焦点化することにした。

【表2 研究領域の設定】

		前研究	1年次	2年次	3年次
4つの観点	主に問題意識をもたせ、価値の自覚を図る項目	主に真・善・美を感覚的にとらえる項目			主に価値の自覚を図る項目
対自己	誠実・明朗、節度・節制、自立など				向上心、個性の伸長 創意・進取 尊敬・感謝
対他者	思いやり・親切 礼儀 など				
対自然・崇高なもの	動植物愛護 環境・保全	自然愛 生命尊重 敬けん			
対集団・社会	役割と責任の自覚 公德心、規則の尊重など	家族愛、愛校心、郷土愛、愛国心 など			

そして、よりよい生き方を学び続ける道徳授業の創造を進めるに当たって、以下の手順と方法で授業実践を通して、その妥当性を検証していくことにした。

【研究の手順と方法】

- ① **よりよい生き方を学び続ける子どもの姿の想定**
各学習過程に見られる「生き方を支える知識・理解」，「見つめ方，問いかけ方」，「よりよい生き方を目指す意欲」を想定する。
- ② **意識調査と体験に関する実態調査の作成，実施**
内容項目「尊敬・感謝」におけるよりよい生き方の実践を阻む要因と実践を支える見方・考え方・感じ方に関する発達の傾向について，意識調査を作成し，実施する。
- ③ **学習内容の明確化**
調査結果を基に，対象や感情，行為，阻害する要因，関連した体験を学年ごとに明確にする。
- ④ **重点的な学習内容の設定**
子どもが強く感じている心の弱さとあまり意識していない意義・心構えを系統化し，重点的な学習内容として設定する。
各学年に応じた「尊敬・感謝」の内容を具現化したよりよい生き方と，それを支える願いを分析し設定する。
- ⑤ **資料の選定・開発，教材化**
対象の広がりや対象への新たな気付き，道徳的問題となる場面の設定などを考慮し，資料を選定・開発，教材化する。
- ⑥ **指導方法の具体化**
個や全体の学びに沿った指導方法を具体化する。
- ⑦ **授業実践・検証**
想定された「よりよい生き方を学び続ける姿」を，よりよい生き方を目指す意欲・態度が発揮される様子から，「見つめ方・問いかけ方」のかかわり，「生き方を支える知識・理解」のかかわりを探り，その妥当性を検証していく。
- ⑧ **学習内容の改善，具体的な子どもの姿の設定**
実践の結果から，重点的な学習内容を変更したり，よりよい生き方を学び続ける姿を具体的に設定したりする。

2 研究計画

本年度は，よりよい生き方を学び続ける子どもの姿を，内容項目「尊敬・感謝」で探り，明らかにしていく。

さらに，本年度の研究を生かし，2年次以降は，他の内容項目についての実践・検証・改善を通して，よりよい生き方を学び続ける道徳授業づくりに取り組み，その構築の手順と方法を具体化し，評価活動の充実を図るなどよりよい指導方法を確立していく。

	1年次	2年次	3年次
よりよい生き方を学び続ける子どもの姿の設定	「よりよい生き方を 目指す意欲・態度」 から検証	よりよい生き方を 学び続ける子どもの 姿の具体的な設定	→
学習内容の設定	「尊敬・感謝」に おける学習内容の 設定	学習内容設定の 要件 「尊敬・感謝」以外の内容項目	→
指導方法の充実	指導方法の実践	指導方法の改善	指導方法の確立

IV 研究の実際 【第3学年 主題名「ささえられているわたし」(尊敬・感謝)の実際】

1 実践の基本的な立場

実践においては、まず2-(4)「尊敬・感謝」における子どもたちのよりよい生き方を学び続ける姿を想定した。次に、「尊敬・感謝」にかかわる意識調査と実態調査を基に、具体的な形(行為)に表す内容を付加し、学習内容を設定した。そして、それをよりよく学び取ることができるように、資料の選定・開発、教材化を行い、さらに、ワークシートの形式や書き込ませ方の工夫を行ったり、対話活動や具体的な形(行為)に表す活動の場を設定したりするなどの指導方法の具体化を図った。

検証の視点	○ 想定された「よりよい生き方を学び続ける姿」を、「よりよい生き方を目指す意欲・態度」が発揮される様子から、「見つけ方・問いかけ方」のかかわり、「生き方を支える知識・理解」のかかわりを探り、その妥当性を検証していく。
検証の方法	○ 授業中の発言内容、つぶやき、ワークシートなどへの書き込みから ○ 対話活動・動作化・役割演技などから ○ 具体的な形(行為)に表す活動などから ※ 実践の検証においては、学級全体の様子を見取ると同時に、事前に行った実態調査を基に、よりよい生き方を学び続ける姿が見られると思われる児童(A児)と、学び続けるためには教師による個に応じた働きかけが必要となるとと思われる児童(B児)を抽出し、見取ることとした。

2 実践の構想と実際

(1) 本主題の授業の具体化

ア 想定されるよりよい生き方を学び続ける子どもの姿

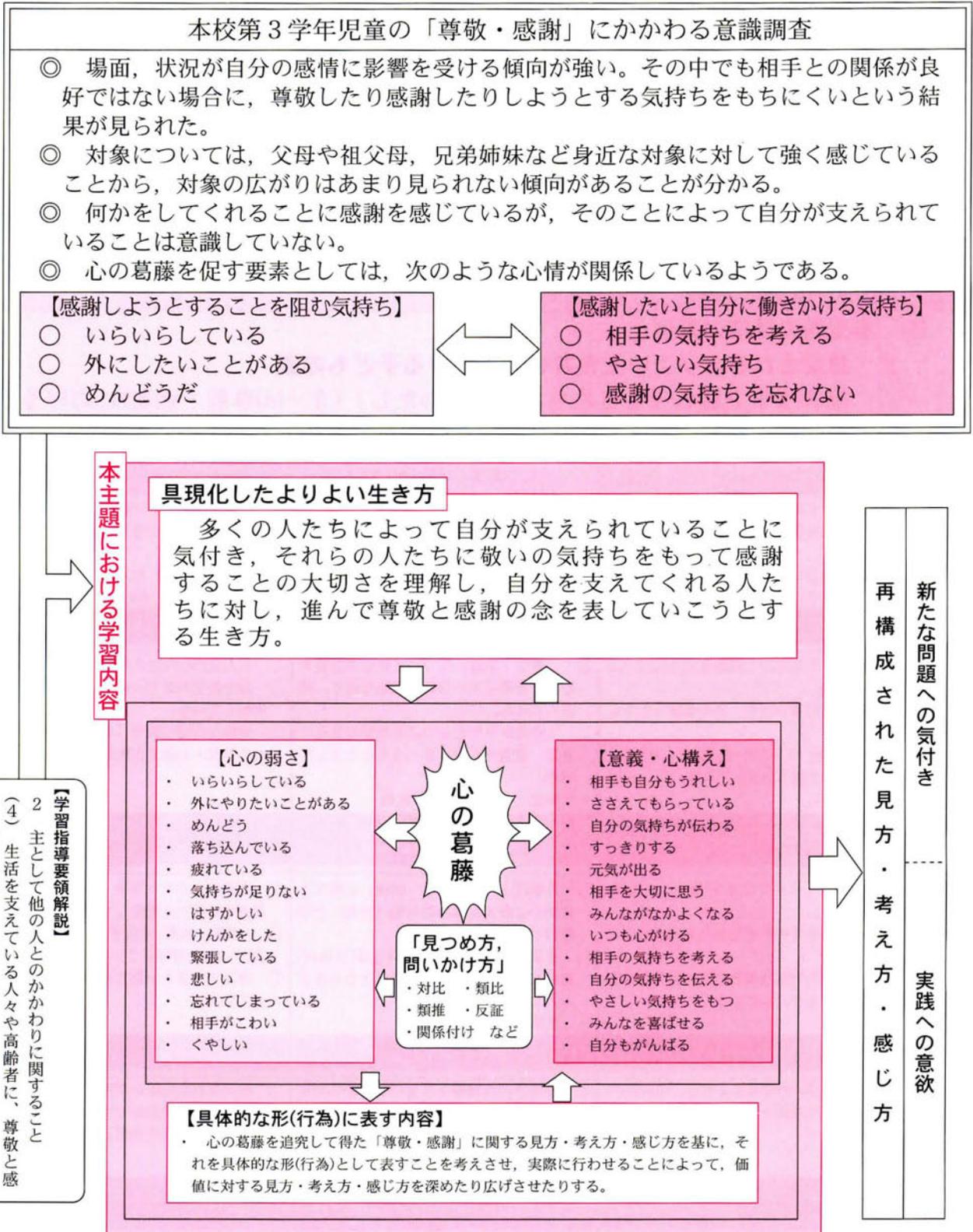
第3学年主題名「ささえられているわたし」(2-(4)尊敬・感謝)における子どもたちがよりよい生き方を学び続ける姿を想定すると下のようになる。

	よりよい生き方を目指す意欲・態度	「見つけ方、問いかけ方」	生き方を支える知識・理解
気付く	○ 感謝している自分と感謝していない自分があることに気付き、その矛盾を考えようとしている。 ○ 自分のこととしてとらえ、自分なりの問題を作ろうとしている。	○ 自分の考えや価値観、経験を振り返り、二面性をとらえ、その矛盾から問題を考えている。 ・ 対比	○ 「尊敬・感謝」に関して自分なりに感じている心の弱さや意義・心構えを理解している。 ○ 「尊敬・感謝」にかかわる自分のこれまでの経験とそのときの感情を理解している。
	○ 自分の経験を振り返り、感謝している自分と感謝していない自分があることから、自分の考えや価値観の矛盾に気付き、学習問題を設定している。		
さぐる・見つける	○ 問題意識をもちながら問題場面を見付けようとしている。 ○ 友達の意見に頷いたり、メモを取ったりしている。 ○ 「尊敬・感謝」について、他の見方・考え方・感じ方はないか探ろうとしている。	○ 「尊敬・感謝」について自分が意義や心構えを感じている経験を振り返り、類推している。 ○ できなかったときの結果を想定することで、意義や心構えをとらえようとしている。 ・ 類比・類推・比較	○ 主人公の心の弱さを理解している。 ○ 自分のこれまでの経験とそのときの感情を理解している。 ○ 資料から感じ取る「尊敬・感謝」にかかわる意義・心構えを理解している。
	○ 学習問題の解決につながる問題場面を見付け、線を引きながら聞いている。 ○ 自分のこれまで感じていた「尊敬・感謝」に関する意義や心構えの振り返りや友達の発表や動作を基に、自分の考えや価値観を深めたり広げたりしながら発表している。		
深める	○ 考えを基に、具体的な形(行為)として行おうとしている。 ○ 自分のこれまでの生活を振り返ろうとしている。 ○ 自分で立てた問題を振り返り、自分なりの考えをまとめようとしている。	○ 再構成された「尊敬・感謝」に関する意義や心構えと具体的な形(行為)を関係付けて表現している。 ○ 経験を振り返り、具体的な形(行為)の比較を通して、意義や心構えをとらえようとしている。 ・ 関係付け・比較	○ 再構成された「尊敬・感謝」にかかわる意義や心構えを理解している。 ○ 「尊敬・感謝」を表すときの具体的な形(行為)のよさを理解している。 ○ 考えていきたい新たな問題の内容を理解している。
	○ 授業を通して再構成された「尊敬・感謝」に関する自分なりの意義や心構えを、これまでの自分を振り返りながら発表したり、感謝を伝える具体的な形(行為)として表したりできる。		
見通す	○ なりたい自分の姿を考えようとしている。 ○ 新たに考えて生きたい問題を考えようとしている。	○ 解決された問題と自分のこれからの生き方を関係付けている。 ○ 解決された内容から新たな問題を設定している。	○ 解決された内容を理解している。 ○ これからの生活の中で生かすことのできる内容であるかを理解している。
	○ 再構成された「尊敬・感謝」に関する自分なりの意義や心構えを表現する。 ○ 感謝したい相手に広がりを見せるなど、解決・納得した考えを、これからの生活場面に生かしていこうとする意欲をもつ。		

イ 学習内容の設定

実践においては、想定されるよりよい生き方を学び続ける子どもの姿が表出されるために、意識調査の結果を踏まえて、次のような学習内容を設定した。

その際、本年度は、価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げさせたりするために、心の葛藤を追究して得た「尊敬・感謝」に関する見方・考え方・感じ方を基に、それを具体的な形(行為)として表すことを考えさせ、実際に行わせる内容を位置付けた。



また、本学級における「尊敬・感謝」に関する子どもの見方・考え方・感じ方は以下のとおりである。

[表1] 実践を阻む心の弱さについての認識 (総反応数52)

実践を阻む心の弱さ	反応数(人)	実践を阻む心の弱さ	反応数(人)
めんどろ	14	おこっている	3
どうでもいい	11	相手への不信	1
けんかをしていらいらする	7	見返りが無い	1
苦手な相手だ	4	意味がわからない	1
おこられた	4	どう表せばいいのかわからない	1
別にしなくてもいい	4	気持ちが落ち込んでいた	1

[表2] 実践を支える見方・考え方・感じ方(意義・心構え)についての認識 (総反応数43)

実践を支える見方・考え方・感じ方	反応数(人)	実践を支える見方・考え方・感じ方	反応数(人)
対自己	自分もうれしい	対他者	相手が喜ぶ
	自分の気持ちが伝わる		相手を大切にしたい
	はずかしがらない		相手がやる気になる
	支えてもらっている		みんながなかよくなれる
	すっきりする		みんながうれしい
	元気が出る		
		対集団・社会	

このことから、本主題における重点的な学習内容を次のように設定した。

【心の弱さ】	【意義・心構え】
<ul style="list-style-type: none"> ○ めんどろなこととはしたくないという労苦から逃避する気持ち ○ どうでもいいというような無関心 ○ けんかをしていらいらするという好悪の感情 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手に支えてもらっている喜び ○ 相手のことを大事に思う気持ちの大切さ ○ みんなとなかよくなりたいという願い

ウ 指導方法の充実

(ア) 考えていきたい問題の個別化, 共通化

それぞれの経験から価値に関する見方・考え方・感じ方を振り返らせ、価値にかかわる経験やそのときの感情との矛盾に気付かせることで、問題意識が高まり、自分なりの切実な学習問題として考えていきたい問題を設定できるようにした。

また、個人の設定した問題の補充・発展を図る意味から共通の学習問題も設定し、提示するようにした。

(イ) 資料の選定・開発, 教材化

よりよい生き方を学び続ける姿がよりよく表出されるために、重点的な学習内容を踏まえ中心資料として「ねつをだした夜に」(自作資料)を開発し教材化した。

宿題のことでおかあさんとけんかしたのぶ子が、熱を出した夜に母親が夜にもかかわらず病院に連れて行ってくれたことや、病院の院長先生が自分のために病院を開け、パジャマのまま診察してくれたことを通して、自分がお母さんや病院の院長先生に支えられていることに気づき、感謝することができるという粗筋。

(ウ) 学習活動の精選と多様化

学習活動を必要十分なものに精選し、子どもたちがじっくりたっぷり活動できる時間を確保するようにした。

その中で、多様な授業を展開するために、感謝することを具体的な形(行為)に表す活動をさせることを通して、「尊敬・感謝」に対する見方・考え方・感じ方の深まりや広がりをよりよく実感させられるようにした。その際には、具体的な形(行為)の背景にある気持ちについて質問したり、それを見ていた子どもたちに感想を発表させたりし、「尊敬・感謝」に対する見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを意識させるようにした。

これまでの「尊敬・感謝」に対する見方・考え方・感じ方

- ・ 自分がうれしい。
- ・ 相手が喜ぶ。



いつも私のことをやさしく見守ってくれているおばあさんに電話でお礼がしたい。

「尊敬・感謝」に対する見方・考え方・感じ方の深まりや広がり

- ・ 自分はいろいろな人に守られている。
- ・ 相手の気持ちを考えて感謝をしたい。
- ・ 感謝の気持ちが伝わるような行いをしたい。

(エ) 発問、板書、ワークシートの工夫

これまでの「尊敬・感謝」にかかわる見方・考え方・感じ方を意識させるような発問や反証をうながす発問を行うようにするとともに、問題解決の道筋を大切にしながら板書を構造化していくようにした。

また、ワークシートは問題解決過程が意識できるように工夫したものをを用い、個の考えていきたい問題がどのように過程で解決されていったのかを意識させ、実践への意欲が高まるようにした。その際、ワークシートは自分の考えの変化が意識できるように、朱書きをさせたり、線を引かせたりするなどして、自分の考えの変化やその根拠を明確にとらえられるようにした。

(2) 授業の実際と考察

発問等 (意)…意欲・態度 (思)…「見つめ方,問いかけ方」 (理)…知識・理解 □…働きかけ

子どもの意識の流れ

だれかに感謝していることやしていないことはありませんか。

感謝にかかわる自分なりの価値観

感謝している自分

- ・ 食事を作ってくれる。
- ・ 育ててくれている。
- ・ やさしい。

矛盾

感謝していない自分

- ・ めんどうだ。
- ・ 遊びたい。
- ・ 関係ない。

考えていきたい問題 (個人)

・ 感謝できるときとできないときがあるのはなぜだろう。

・ いつも感謝を忘れないためにはどんな気持ちが必要だろう。

・ 感謝することはなぜ大切なのだろう。

考えていきたい問題 (共通)

感謝するということについて考えよう。

資料「ねつをだした夜に」一読後、自分なりの追究場面

けんかをして何もする気が起きずに寝てしまう場面

のぶ子が「ありがとう」とつぶやく場面

この二つの場面でののぶ子はどんな気持ちだったのだろう。

・ お母さんなんかきらいだ。どうでもいい。関係ないや。

心の葛藤

・ 感謝の気持ちを忘れていた。
・ ありがとう。

のぶ子はだれにどんな気持ちで「ありがとう」とつぶやいたのだろう。

お母さんに

- ・ けんかをしたのに私を病院に連れて行ってくれた。
- ・ 心配してくれている。

院長先生に

- ・ 夜中なのに病院を開けて診察してくれた。

・ 助けてくれた。
・ 心配してくれた。
・ やさしくしてくれた。

自分は周りの多くのの人に支えられている。

のぶ子の感動への共感を高める

・ 発表や書き込みの背景にある考えや経験を問うことで、自らの体験場面での内面と関係付けさせ、のぶ子の感動への共感が高まるようにした。

よりよい生き方を学び続ける子どもの姿

○ 自分の考えや経験を根拠とした、感謝することに対する自分なりの価値観について発表している。

- ・ 自分の経験を振り返り、感謝しているときの感情と感謝していないときの感情を想起している。(意)(思)(理)

A児

- ・ 過去の経験を基に、感謝しているときと感謝していないときの感情感情を発表した。

B児

- ・ 過去の経験を基に、感謝しているときと感謝していないときの感情を発表した。

○ 自分のもつ考えと日頃感謝していないことがあることの矛盾に気付く、学習問題を設定している。

- ・ 自分の価値観と日頃の言動との矛盾から、自分なりの考えていきたい問題を設定できている。(意)(理)

A児

- ・ 「どんな気持ちをもったら、いつでも感謝できるだろうか。」

B児

- ・ 「感謝していないときは、どんな気持ちなのだろう。」

- ・ B児は、考えていきたい問題を立てられない様子だったので、実態調査の結果を基に、感謝しているときの気持ちと感謝していないときの気持ちを意識させる声かけを行った。その結果、B児は上のような考えていきたい問題を設定した。

○ 学習問題の解決につながる問題場面を見付け、線を引ながら聞いている。

子どもたちが自分なりの考えていきたい問題を追究していくことができると設定した場面

- ① けんかをして何もする気が起きずに寝てしまう場面
- ② のぶ子が「ありがとう」とつぶやく場面
- ③ お母さんが心配するを見たときや院長先生に診察をしてもらっている場面

- ・ 自分の考えていきたい問題の解決を意識した追究場面の設定ができている。(意)(思)

A児

- ・ ①②③すべてに線を引いていた。

B児

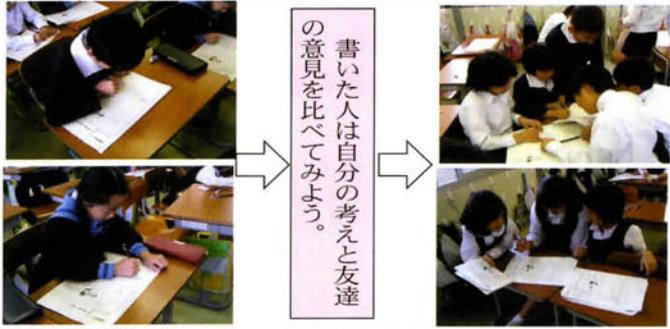
- ・ 線が引けていなかった。

対象の広がり

- ・ 院長先生の存在やのぶ子への接し方にふれることで、自分を支えてくれている人は家族以外にも周りにたくさんいるということに気付かせるようにした。

見
つ
け
る
深
め
る
見
通
す

感謝をすることについてどのように考えましたか。ワークシートに自分の考えをまとめましょう。



書いた人は自分の考えと友達の意見を比べてみよう。

- ・ 友達の意見で納得できるものはメモしておこう。
- ・ 友達の意見で質問したいことがあれば尋ね、話し合しましょう。

通達学園プリント
三年組 組名()

自分なりの考えをまとめるのに時間がかかっていたので、感謝していないときはどんなときだと考えたか、授業を振り返るような声かけを行い、意図的に意見交換をさせるようにした。

机間指導を通して、意見の異なる子ども同士が意見交換できるように声かけを行った。

見方・考え方・感じ方に深まりや広がりが見られない子どもに対しても、意図的に参考にしてもらいたい子どもと意見交換をさせるようにした。

自分なりの考えをまとめるのに時間がかかっていたので、感謝していないときはどんなときだと考えたか、授業を振り返るような声かけを行い、意図的に意見交換をさせるようにした。

机間指導を通して、意見の異なる子ども同士が意見交換できるように声かけを行った。

見方・考え方・感じ方に深まりや広がりが見られない子どもに対しても、意図的に参考にしてもらいたい子どもと意見交換をさせるようにした。

ありがとうございますをどんな気持ちでどのように伝えたいですか。

【どんな気持ちを】 【どのように】

丁寧な言葉遣いで 手紙で

やさしい気持ちで 電話で

相手のことを思って お手伝い

- ・ 自分なりの考えをふまえて、感謝をどんな具体的な形(行為)で、どのように表して伝えたいか考えさせた。
- ・ 具体的な形(行為)にする子や見ている子に、その背景にある気持ちについて問いかけたり、行為の相手役をしたりして、「尊敬・感謝」に対する見方・考え方・感じ方の深まりや広がりを意識させるようにした。

この人たちにみなさんはどんな気持ちをもっていますか。

- 再構成された「尊敬・感謝」に関する自分なりの意義や心構えを表現する。
- 感謝したい相手に広がりを見せるなど、尊敬や感謝にかかわる新たな問題を設定したり、これからの生き方に夢や希望をもってよりよい生き方にしていこうとする意欲をもつ。

・ 深まったり、広がったりした「尊敬・感謝」に関する見方・考え方・感じ方について、それらを今後の生活の中のどんな場面で、どんな相手に、どのようにありたいかを考えている。(意)(思)(理)

A児
・ 母がしかるのも私のこと思ってくれているのだと思い、素直に聞きたい。

B児
・ ありがとうと心から言える気持ちを大切にしたい。

- 自分のこれまで感じていた「尊敬・感謝」に関する意義や心構えの振り返りや友達の発表や具体的な形(行為)を基に、自分の考えや価値観を深めたり広げたりしながら発表している。
- ・ 積極的に友達の意見を聞き、ワークシートに朱書きしている。(意)(思)
- ・ 友達の意見を参考にして、自分の意見に付加していた。(意)(思)(理)
- ・ 追究したことを基に、根拠をあげながら、「尊敬・感謝」について深まったり広がったりした見方・考え方・感じ方を発表している。(意)(思)(理)

A児
○実態調査
・ 支えてもらっている
↓
○ワークシート
・ 命を守ってくれている。
・ 感謝→相手のことを思っている。

B児
○実態調査
・ がんばろうという気持ち
↓
○ワークシート
・ 自分は守られている。
・ 感謝→ありがとうという気持ちが大切。

・ 自分なりの考えをまとめるのに時間がかかっていたので、感謝していないときはどんなときだと考えたか、授業を振り返るような声かけを行い、意図的に意見交換をさせるようにした。

・ 机間指導を通して、意見の異なる子ども同士が意見交換できるように声かけを行った。

・ 見方・考え方・感じ方に深まりや広がりが見られない子どもに対しても、意図的に参考にしてもらいたい子どもと意見交換をさせるようにした。

- 再構成された「尊敬・感謝」に関する自分なりの意義や心構えを、これまでの自分を振り返りながら発表したり、感謝を伝える具体的な形(行為)として表したりできる。
- ・ 「尊敬・感謝」にかかわる自分なりの見方・考え方・感じ方を基に、感謝をどのような具体的な形(行為)で表すかそれぞれ考えることができている。(意)(思)(理)

A児
・ 感謝の気持ちをこめた手紙を丁寧な字で書いて渡すという行為を考え、発表した。

B児
・ 感謝の気持ちをこめて手伝いをすることを考えていたが、発表はしなかった。

・ 新たな問題に気付いたり、実践への意欲を高めたりするために、子どもたちの周りにいる人々の写真を提示した。

【実践の結果】

生き方を支える知識・理解が発揮された部分 「見つめ方, 問いかけ方」が発揮された部分
 よりよい生き方を旨す意欲が発揮された部分

- 子どもたちは自分のこれまでの経験を振り返ることで、感謝しているときの感情や感謝していないときの感情を想起し、矛盾に気づき、考えていきたい問題を設定することができた。問題を設定することができなかった子も、これまでの経験とそれに伴う感情について問いかけたり、実態調査を基に振り返らせたりすることで、自分なりの問題を設定することができた。
- 資料を読む際に、子どもたちは自分の考えていきたい問題の解決につながると思われる場面を見付け、線を引しながら読む姿が見られた。
- ワークシートの形式や書き込ませ方を工夫したことにより、子どもたちは友達と意見交換を行って納得できたことを朱書きしたり、友達の意見を参考に自分の意見に付加したりすることができた。
- 子どもたちは「尊敬・感謝」にかかわる自分なりの見方・考え方・感じ方を基に、感謝をどのような具体的な形(行為)で表すかを考え、行うことで実践への意欲を高めることができた。

【考察】

- ◎ 「気付く」「さぐる・見つける」「深める」「見通す」の各過程において、A児の学びの姿に、想定したよりよい生き方を学び続ける姿が見られたことより、想定したよりよい生き方を学び続ける子どもの姿は妥当であったと考える。
- ◎ A児の発言やワークシートへの書き込みから、A児は各過程において、「見つめ方, 問いかけ方」「生き方を支える知識・理解」「よりよい生き方を旨す意欲・態度」が有機的にかかわっている様子が見られる。また、B児へのかかわりの中で、「見つめ方, 問いかけ方」「生き方を支える知識・理解」を補助することで「よりよい生き方を旨す意欲・態度」が高まり、よりよい生き方を学び続ける姿が見られた。このことから、よりよい生き方を学び続ける姿においては、その三つの資質・能力がかかわりをもっているということが考えられる。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 内容項目「尊敬・感謝」において、「よりよい生き方を旨す意欲・態度」が発揮される様子から、「見つめ方・問いかけ方」のかかわり、「生き方を支える知識・理解」のかかわりを探ることで、よりよい生き方を学び続ける子どもの姿が明らかになった。
- 学び取った見方・考え方・感じ方を具体的な形(行為)に表す学習内容を付加することによって、よりよく生きることのよさを実感することができた。
- 自らの道徳的問題を大切にし、どのように解決されたかを明確にすることが、子どもにとってより学びがいのある授業につながるということがわかった。

2 研究の課題

- よりよい生き方を学び続ける子どもの姿を、「尊敬・感謝」以外の内容項目においても明らかにし、学習内容を精選・構造化していくための要件を設定していく必要がある。
- よりよい生き方を学び続ける子どもの姿が表出されるように、指導方法の改善を図っていく必要がある。

【参考文献及び資料】

- 「小学校学習指導要領解説 道徳編」 (平成11年 文部省)
 「新道徳教育事典」青木孝頼・金井 肇・佐藤年夫・村上敏治 編 (1980年 第一法規)
 「道徳教育新時代」押谷由夫 著 (1994年 国土社)
 「感性豊かな子どもを育てる道徳教育の創造」石川但男・荻原隆 共著 (1997年 文教書院)